

【vol.12】ジミヘンに学ぶトライアドのフレーズ作り

こんにちは、大沼です。

今回から、これまで覚えたトライアドが、実際に使われている譜例をやって行きたいと思います。

新しいことを覚えたら、早いうちにそれを使っていかないと、時が経つにつれて忘れていきますので。

それでは覚えるのに使った時間が無駄ですし、実際にギターで曲を弾くという、ここからが特に楽しいところなので、本当にもったいないです。

新しいネタを仕入れたら、ガンガン使ってください。

もう「少しでもチャンスがあればやってみる」くらいの精神でいきましょう。

バンドのリハなどでやってみて、ちょっとおかしな感じになっても、「ちょっと新しいこと試してみたんだー」とでも言っておけば良いのです。笑

ダメっぽかったらもうやらなきゃいいだけですしね。

では今回は、かの偉大なる、ジミ・ヘンドリックスの楽曲を参考に学んでいきましょう。

今まで覚えたトライアドが、実際に曲の中でどう使われているのか？

そういった部分を掴んでくださいね。

と、言うことで、モデルにする楽曲は、Jimi Hendrix(ジミ・ヘンドリックス)の“Wait Until Tomorrow”です。

Youtube 楽曲リンク

<https://youtu.be/B7I9zAUuiGQ>

※万が一リンク先が削除されている場合は、音源を購入するか、曲名等で検索してください。

近年ではジョン・メイヤーなどがカバーしている曲ですね。

では、その曲のイントロをモデルに、同じようなアイディアで、トライアドを使ったフレーズを作ったので、それを弾いてみましょう。

※原曲は半音下げなので、レギュラーチューニングで弾く場合は、全てのフレーズを、1フレット下げて弾いてください。

譜例 1、サンプルフレーズ Jimi Hendrix “Wait Until Tomorrow” 風 0:00～

The image shows a musical score for a guitar exercise. It consists of two systems of notation. The first system is labeled 'E' and the second 'D'. Both systems are in the key of E major (two sharps). The first system has a dynamic marking 'mf'. The notation includes a treble clef, a key signature of two sharps, and guitar-specific notation including fret numbers and string indicators (T, A, B). The first system has a dynamic marking 'mf'. The notation includes a treble clef, a key signature of two sharps, and guitar-specific notation including fret numbers and string indicators (T, A, B). The first system has a dynamic marking 'mf'. The notation includes a treble clef, a key signature of two sharps, and guitar-specific notation including fret numbers and string indicators (T, A, B).

弾いてみましたか？

テンポは自由に設定してもらって構いませんが、大体 BPM110～120 位だと自然な感じがすると思います。

さて、まずはコード進行に注目しましょう。

進行は E⇒D の 2 小節ごとの繰り返しですね。
(※原曲は 1 小節ごとですが)

早速、E のトライアドからのスタートです。

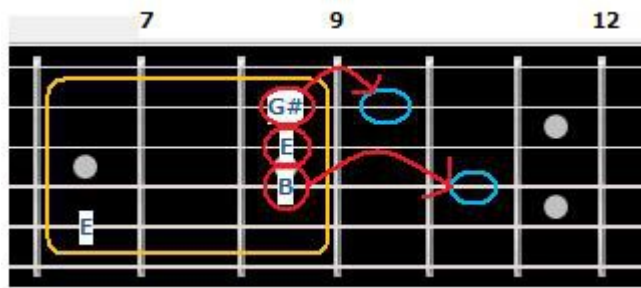
これは 4、3、2 弦の 9 フレット、E のトライアドの第 2 転回形ですね。(P5th、root、M3rd の順)

普通に 5 弦 7 フレット E 音をルートにした、E のバレーコードのヴォイスングの一部でもありますね。

そこから、4弦を9フレットB音を、11フレットC#音に、
2弦9フレットG#音を、10フレットA音にハンマリングします。
(※原曲のフレーズでは次に逆にプリングもしますね)

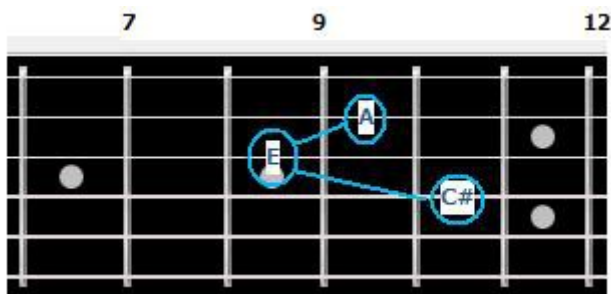
この動きを、指板上の図で見てください。

図1、Eトライアド(第2 転回形)



さて、4、3、2弦の9フレットを押さえた時の、Eのトライアドは分かりやすいですが、
そこから4弦と2弦をハンマリングした後の形、これに見覚えはありませんか？

図2



これもあるトライアドの形ですが、何のトライアドでしょうか？

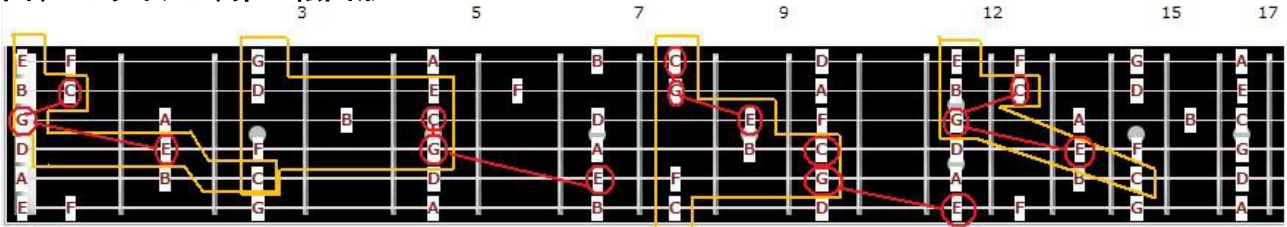
ちょっと考えてみましょう。

.....。

どうですか？分かりましたか？

C音をトニックにして学んでいた時は、ここでやりました。

図、Cトライアド、第1転回形



もう分かると思いますが、ハンマリング後はAのトライアド(の形と構成音)になっています。

図1、Eトライアド(第2転回形)

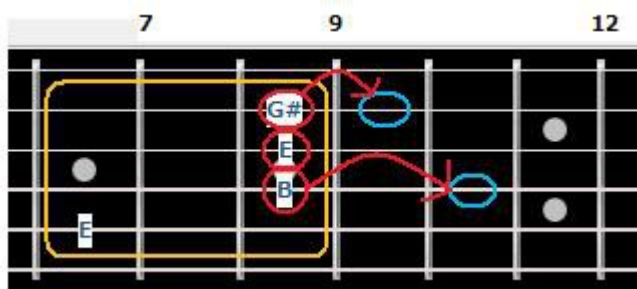
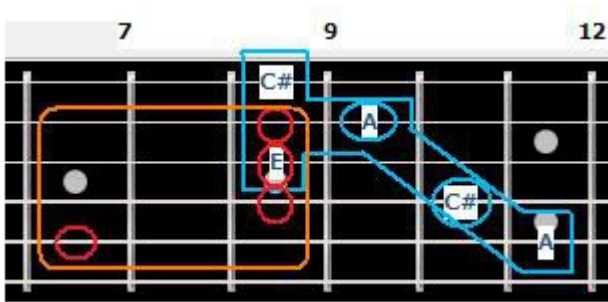


図3、Eトライアド(第2転回形)、Aトライアド(第1転回形)



トライアドのフォームとしては、M3rd、P5th、rootの順のAトライアドの第1転回形ですね。

この動きは、ブルースなどのスタイルが元になっているんですが、ジミヘンのルーツが垣間見える、良いサンプルだと思います。

次の小節の、Dコードの時も、同様の動きが見られます。

こちらは、Dのトライアドから、Gのトライアドになっていますね。

同じように確認してみてください。

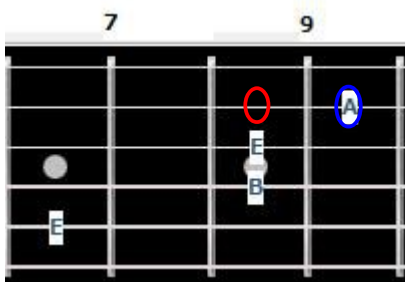
では、もう一度、今回の譜例を見てみましょう。

譜例 1、サンプルフレーズ Jimi Hendrix “Wait Until Tomorrow”風 0:00～

The image shows two systems of musical notation. The first system is for E major, with a treble clef staff and a guitar tablature staff. The tablature shows fret numbers 9, 10, 9, 11, 9, 10, 9, 11, 9, 7, 9, 11, 9, 9, 11, 9, 9. The second system is for D major, with a treble clef staff and a guitar tablature staff. The tablature shows fret numbers 7, 8, 7, 7, 7, 7, 7, 7, 7, 5, 7, 9, 7, 7, 7, 7, 7. Both systems include a key signature of two sharps (F# and C#).

もう1つの解釈として、コード的にみるなら、Esus4っぽい動き、とも見る事ができます。

図、Esus4



M3rd から P4th へのハンマリングですね。
(※P4th についてはその内やりますので、今は、
“ここが P4th なんだ”とだけ分かっていたら OK です)

やはり、Dコードの時も同一です。
あとは、以前、3rdとP5thを覚える時にCで練習したこの辺りの動き、
これも出てきています。

譜例、Cコード(C音トニック時)のM3rd、P5th

The image shows a guitar score for a piece in 4/4 time. It consists of four systems of music. Each system has a treble clef staff and a guitar tablature staff. The first system (measures 1-3) is marked with a mezzo-forte (mf) dynamic. The second system (measures 4-6) has a red box around measures 4 and 5. The third system (measures 7-9) continues the melodic line. The fourth system (measures 10-11) shows the final notes. The tablature below each system shows fingerings and fret numbers for the strings.

この、赤で囲った枠内の音の動きを、E(とD)トニックのポジションまでずらして、
確認してみましょう。

「トニックをずらして、学んだフレーズと原曲のフレーズを一致させる」と言う作業ですが、
これはペンタニックスケールでもやりましたね。

色々なトリックから、メジャー、マイナーの
両トライアドやスケールを弾けるようになっておきましょう。

では、今回は以上です。

これまで覚えてきたトライアドのフォームが、楽曲で実際にどう使われているのか？
という内容でした。

この様に、新しいことを覚えたら、実際にそれが使われている曲を探してみましょう。

そうして、それらを参考に自分なりにフレーズを作ってみて、
オリジナル曲などで使ってみてください。

そうしていくことによって、覚えた知識が身についていきますので。

ただ覚えただけでそこで止まっていると、段々と忘れていきますからね。

それは本当にもったいないと思うので、
今まで覚えることに使った時間を無駄にしないようにガンガン使っていきましょう。

ありがとうございました。

大沼